

長野県社保協ニュース <21-9>

2016年9月5日(月) 長野県社会保険推進協議会

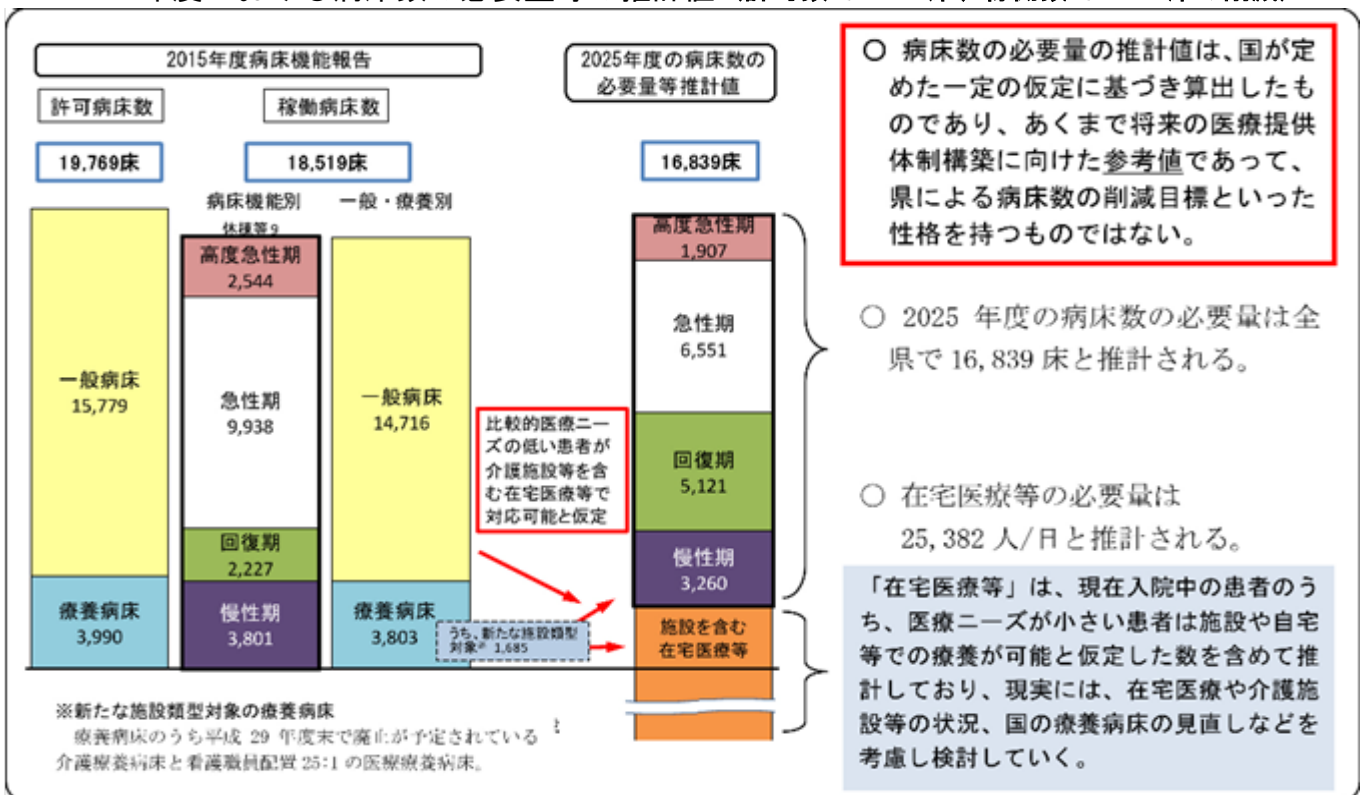
<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

http://www.n-syaho.com E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

9/2(金) 第4回長野県地域医療構想策定委員会開かる 県から地域医療構想素案が発表。各委員から 「数値」の一人歩き「懸念」の意見が続出。

<県当局が発表した病床数の必要量の推計案の概要> **両論併記**

1. 病床数の必要量推計値は、あくまでも「仮定にもとづく推計」「参考値」であり、病床の削減目標でない。
2. 県には現在稼働している病床を削減する権限がない。
3. 2015年の病床数の推計は「医療機関所在地ベース」を採用するが、将来に向かってのとりくみの結果「患者住所地ベース」に近づくとして「高度急性期は、医療機関所在地ベース、急性期・回復期・慢性期は患者住所地ベース」の推計値も合わせて示す。
4. 2014年以降の医療機関のとりくみ(上小、木曾、大北、北信医療圏におけるがん医療の充実、北信医療圏における医療療養病床の整備)を反映させ、若干の修正を行う。
5. 2025年度における病床数の必要量等の推計値(許可数で2930床、稼働数で1680床の削減)



6. 修正後の医療圏別の病床必要量は、別途(略)。詳細は県のホームページを参考のこと
<http://www.pref.nagano.lg.jp/iryo/kenko/iryo/shisaku/hokeniryo/vision1kai.html>

＜各委員から出された懸念の意見（概要）＞

- 数値の一人歩きはないのか。「佐久」と「上小」は同一医療圏化している。別々医療圏の構想は現実的ではない。慎重にやって欲しい。
- 数値は、目標値にならないようにしてほしい。削減すべき数値でないことを明記すべき。医療機能報告と必要病床数とは単純に比較できない。病床機能の選択は医療機関の自主的判断で報告しており、必要病床数は、政治的判断である。慢性期病床の見当し見えない。在宅医療不可能患者は調査でも58%いる。介護療養病床の廃止後はどうなるのか。誤解が生じないような記載にして欲しい。
- 数年後に数値は一人歩きしないか心配している
- 数値の一人歩きが心配。提示された数値はどのような意味はあるのか。二次医療圏単位での構想は原則かも知れないが、例外がある。信大とこども病院は考慮して欲しい。
- 「医師いれば・・・」との指摘はそうだが、特に専門医制度が動けば、医師の集中が加速する。県には強制力がないと言いが、自治体病院がどうなるのか疑問である。
- 木曽地域南部の住民は、岐阜県中津川市の病院に行っている人が多い。しかし病院の診療所化が話題になっている。その分数値が減らされるのは困る。柔軟に対応できるようにしてほしい。
- 近接医療圏同士の話し合いができるようにしてほしい。
- 数値の一人歩きがならないよう、一定期間したら見直すとの記載をして欲しい。
- 協会けんぽの患者調査では、勤務地が住居地以外に勤めている患者は、勤務地の医療機関に罹る傾向がある。違う医療圏への移動が目立つ。
- 療養病床には、患者待ちが多い。医療行為が必要な慢性期患者の介護施設の入所は大変。療養病床に対しては経済的事由や医師の常駐など希望者が多い。
- 介護療養病床の廃止後の姿は見えない。どこまでやるのか、死生観やターミナルケアの国民的合意づくりが大切な課題ではないか。
- 地域には、特養ホームが整備されきて、老健施設の空ベット目立つようになってきた。在宅医療の充実が必要だが。
- 在宅医療の充実には、訪問看護ステーションが不可欠だが、その展望はどうか？
- 訪問看護ステーションを担当する看護師が不足している。研修時間の確保がなかなかできない。
- 医師不足の中で訪問看護師の役割は重要だが、1～2割辞めている状況もある。
- 薬剤師も在宅医療に積極的な関わっていききたい。
- 歯科医療も重要だと認識しているが、やる歯医者不足している。
- 管理栄養士も積極的チーム医療の一員として係わりたいが、需要が少ない。など



委員会での意見や（素案）を各医療圏の調整会議でも協議し、それらの意見も反映した（案）を作成し、次回の策定委員会で協議することになった。

長野県の医療・介護のこれからを考える県民集会

～これでいいのか！病床削減計画

2016年10月30日（日）午後1時～4時頃

岡谷市文化会館（カノラホール）小ホール

■メイン講演 諏訪赤十字病院院長 大和真史氏

「諏訪地域における病院長連絡会のとりのくみを通じて」



■4名の方から報告・発言（進行役）健和会飯田中央診療所：熊谷嘉隆氏

住民の代表、療養病床病院の関係者、開業医、訪問看護師

■フロアからの自由発言